



2013.1.7 発行

めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人) 横浜の外国人サービスネットワーク

第35号

Vol. 9 No. 3



精リハ学会報告 神奈川大会から新たな20年を問う 1



SSTの現場から SST 学術集会 in 埼玉に参加して 3



就労の現場から 「就職している人の自分磨き」研修に参加して 5



地域の現場から コミュニティカフェさくら茶屋の取り組み 7



当事者活動 精リハ学会で「めんちゃれ」ポスター発表 9

予定・報告 11

日本精神障がい者リハビリテーション学会
第20回神奈川大会 IN YOKOSUKA
「開国の地から新たな20年を問う」に参加して

この学会は、会場を横須賀市文化会館・神奈川県立保健福祉大学の2カ所に置き、11月16日(金)から18日(日)の3日間開催されました。20回という節目の年でもあり趣向を凝らした企画が用意されました。

初日のサテライト企画は、2つの企画で構成されていました。

第1部では、精神障がいの方が体験した不思議な出来事(症状)を題材に、暗くなりがちな闘病記を遊びである「かるた」の形をとり「幻聴妄想かるた de アンサンブル」と題したパフォーマンスが行われました。ユーモラスに歌や太鼓に合わせて演者と会場が一つになって「幻聴妄想かるた」の世界を体験しました。

第2部は、世界で初めて精神病院をなくした国、イタリアで作成された実話を基にした映画「人生ここにあり！」が上映され、当事者やご家族の方の参加も多数ありました。活気にあふれ和やかな雰囲気の間でした。

翌日17日の開会式には、神奈川県知事や横須賀市長も来賓として出席されました。

この日は「開国の地から精神障がい者のリハビリテーションの現状を問う」シンポジウムと、それを受けての「精神障害者リハビリテーションの新たな20年を拓く」をテーマとしたシンポジウムの2本が企画されました。

最終日の18日は、会場を神奈川県立保健福祉大学に移し、全国の精神障害者リハビリテーションを担う方々の日頃の研究発表や、触法、教育、障がい概念、当事者、就労など様々なキーワード

のワークショップが開催され、先駆的な試みが紹介されていました。

以下は、3日間にわたる学会から17日に行われたシンポジウムIに参加し学んだことを報告したいと思います。

「開国の地から精神障がい者のリハビリテーションの現状を問う」

神奈川県内の精神保健分野で長年活動をしてきた医療・行政・地域の担い手の方々の報告でした。実践活動を踏まえ今後どのような活動・支援が必要とされていくのかを考えるシンポジウムでした。

30年以上前、神奈川ではどんな活動が行われていたのか？

医療の現場では、精神疾患の患者さんは当然のことですが、治療の対象者でしかなかったのです。しかし、退院後地域での生活をどのようにしていくか？ このことは、大きな課題でした。当時の保健所ケースワーカーも家族から退院後どう関わっていけばよいのか？ 病気について学びたいという声に応えるために家族会を立ち上げました。その家族会の皆さんが作業所設立の唯一の担い手となり活動されました。

もっと広く展開させなければならない必要からの「精神保健福祉ボランティア講座」

神奈川県では県社会福祉協議会がこの活動に、地域住民の支えや理解が必要と、早い段階で対応し、準備に取りかかり精神保健ボランティア講座を開催しました。多くの地域の方々が病気の理解や関わり方など学ぶ機会となりました。当時地域

作業所を開設する際、地域住民の設立反対運動により活動を制限されたり、強い反対運動で開設を取りやめたところもあったのです。しかし、この講座の開催によりボランティアさんとなる地域の方々が作業所やグループホームの設立にかかわるようになってきました。

多くの作業所が作られる中、県内で横のつながりを持ち様々な活動を展開していこうと「神奈川県精神障害者地域作業所連絡会」が発足しました。その活動の中で少しずつ会資源が整い始めてきました。

1つのセンターに様々な機能を持たせた試み

それよりずっと以前、日本で初めての公設リハビリテーションである社会復帰医療センター（川崎市・のちのリハビリ医療センター）が開設されたのは40年前のこと。当時の課題は帰る先のない入院者・単身者をどのように支えるか？ があり、職業リハビリテーションの開拓・地域内ケアの体制整備などが目的として作られました。1つのセンターに様々な機能を持たせ多くの職種のスタッフ（看護職・福祉職・医師・作業療法士・心理士など）が配置され、先駆的な活動がなされていました。40年も前にこのようなセンターが作られていたことに驚かされます。

時代は、地域でのネットワーク作りにシフト

1カ所に多くの機能を持ち合わせていることよりも、必要なサービスを地域で受けられることに重点が置かれるようになっていきます。各地域に作業所が設置されると、次に生活全般を支援するサービスが必要になってきます。精神障がい者地域生活支援事業への取り組みへと移っていきます。

今までにない個別の対応への取り組み

横浜市では平成13年より障がい特性を踏まえ地域で生活する障がい者の生活力・社会適応力を

高める支援を行う自立アシスタント事業を開始しました。

今後の課題

今後の課題は、24時間のサービスや危機的状況への介入の整備、精神疾患が5大疾病に入り特定の人の問題でないことを踏まえどのような支援が必要になるのか？ ということ当事者の方々がスタッフとして関わり活躍できる場を提供できるようにすることなども挙げられました。

シンポジウムに参加して

地域生活支援へシフトしたこの20年。社会資源・サービスは細やかなニーズに応えられるよう着実に進んでいると思えました。

今では存在していて当然と思える社会資源が、困難を乗り越え知恵を絞って作られてきたことをこのシンポジウムで知ることができました。このシンポジウムに参加することで今後の課題を考える良い機会になりました。

さて、実際にどうその課題に取り組んでいくか？ 当事者の皆さんと一緒に考え活動できたら、更に良いものとなっていくでしょう。

今回の大会には北海道から沖縄まで多くの地域の皆さんが参加され関心の高さが伺われました。来年は、沖縄で開催される予定です。ぜひ、皆さんご参加ください。

（YMSN 中島契恵子）

第17回 SST 学術集会に参加して

2012年12月7日～8日、埼玉県おおみや市ソニックシティに於いて、第17回SST学術集会「SSTの本質を探る」が開催され、南関東支部の事務局でもあるメンタルネットもスタッフ、会員の多くが参加しました。今回はその様子の一こまを2人の方に寄稿していただきました。

プレセミナー「認知行動療法に基づく個人SST」

今回の学術集会では、初の試みだったと思うのですが、プレセミナーが行われました。どのセミナーも魅力的でしたが、その中でも“超目玉”の前田ケイ先生の「認知行動療法に基づく個人SST」に参加することができました。

実際にどのように個人SSTを行うかデモンストレーションを3つ見せてもらいました。その中の一つは前田ケイ先生(SST普及協会認定講師)による、認知へアプローチするというところに重きをおいた「つらい言葉を聞いた時の対処練習」を見せていただけました。やり取りの中で、「ぱっと浮かんでくる考えを自動思考という」「辛い言葉を聞いた時、どのような考えが浮かんできたか」「他の考え方をしたらどうなるか、考えてみて、試してみましょう」と、考えることのプロセス、またやり方の筋道を的確に示しておられました。本人が進んで「やってみよう」という流れが確実に出来ていることに見とれてしまいました。

また、考えることにプラスして動作が付いていると、より自動思考がしやすくなる事も提示していただきました。

やり取り中から、「どのようなことがあり」「どうしていけたらいいか」を本人が発言できるよう



学術集会会場ホール受付

に問いかける。本人の中から出てきたものなので、動機付けも既に出てきている、というのがよく分かりました。

前田ケイ先生の個人SSTを見せていただき、「自分がこんなSSTを受けたい」というのが一番の感想です。

今回の学術集会でも、精神医療以外の分野での発表が目立ちました。SSTを支援方法に取り入れ、実際に当事者の対処方法を増やしていくことに役立っていることを実感できました。

スキルを活用する事で生活がしやすくなる事を必要としている人のためにSSTがあるのだと思います。しかし、現実には対処力を付けていくための支援が実際に行われている現場の数はまだまだ少ないです。

地域のどこにいても、誰でもが参加出来るSSTがごく当たり前に行えるような環境作りが必要だと思いました。そのためにも、支援者がSST

Tを実践できるよう力を付けていく必要性を痛感しました。

(すぺーす・あい 鈴木典子)

懇親会に参加して

学術集会への参加は、今回が初めてでした。SSTを実践されている方々と少しでもお話ができればという気持ちがあり、懇親会へも出席させていただきました。はじめは、一人ぼつんと立っている状況で不安な気持ちになりましたが、同じテーブルの方とお話することができ、SSTという共通点ですぐに打ち解けることができました。

また、普段は研修会などでお見掛けするのみで、交流をしたことのない先生方とも、直接ご挨拶させていただきお話することができたことは、懇親会の場だからこそだと感じています。嬉しさとSSTに取り組むエネルギーをいただきました。

そして、大変印象に残っていることは、埼玉精神神経センターのデイケアの皆さんの合唱です。懇親会の大勢の人を前に、堂々と歌や楽器演奏などを披露される姿は今でも目に焼きついています。この日に合わせて、一生懸命練習されたことを伺い、皆さんの持っている“力”を実感しました。私も現在精神科デイケアで勤務しています。

「帰ったらメンバーさんと関わる時間、話す時間をもっと意識的に持とう」と、皆さんの合唱を聴いて思いました。それは、精神科リハビリテーションにおいて根本的な部分だと思いますが、普段目の前の事ばかりに目がいってしまっていて、大切な事を忘れかけていた自分に気づかされました。

懇親会は、様々な方との新たな出会いがあった時間となりました。皆様とご一緒させていただ

たことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(横浜市総合保健医療センター 高橋友美)



「就職している人の自分磨き」～なりたい自分になろう！！～ 戸塚就労支援センター主催就労者ミーティングに参加して

開催日：2012年12月8日（土） 14：00～18：30

会 場：神奈川県立 かながわ労働プラザ

第1部：女性「働く女性メイクアップセミナー」（講師）株式会社ファンケル

男性「おしゃれなスーツの着こなし講座」（講師）株式会社コナカ

第2部：男女合同 「クリスマス立食パーティー」

今回で3回目となる戸塚就労支援センター主催の就労者ミーティングは上記の様なものになった。第一回目は恋愛・結婚・出産などについて。第二回目はテーブルごとにテーマを決めて話し合うグループミーティング。テーマは「二人暮らしのコツ」、「どうしたら出会えるのか」、「相手に好感をもたれるための方法」、「相手との距離の取り方」、「子育てについて」などでやはり男女間の事を扱ったものだった。

一見、今回は仕事に中心を移したようにも見えるが、やはり女性は男性視線を気にしたもの、男性は女性視線を気にしたものになっている。2部の立食パーティーも女性は女性で固まる事無く、男性は男性で固まる事無く、くじ引きで着くテーブルを決めた。何かが起こる事を期待しての配慮だと思える。そんな就労者ミーティングの感想をこの後に載せた。ぜひ、みなさんに読んでもらいたい。

「働く女性メイクアップセミナー」に参加して

私は昨年のトライ7月生です。実習先の会社に行く際、お化粧の仕方が分からなくて「就活メイク本」を本屋で即買い、細かく研究し独学で学び「いつかお化粧の仕方を教わりたいなあ」と感じていました。仕事に就いて1年2カ月経ちました。

戸塚就労支援センターのメイクアップ講座のイベントを知り、楽しみにしていたものの初参加なので当日はドキドキしながら会場に行きました。会場は思ったより狭く、メイクアップ道具がセッティングされており、化粧上手な女性が立っていて「この方に教わるのかな」と少し感じながらファンケルグッズを手にして席に着きました。

お肌をきれいにする所から始まり、鏡を見て適した照明に当たった顔にはニキビが沢山写って



いました。お肌を丁寧にケアしていくうちに普段の雑さが分かり、自分の体の一部の顔もいたわっていかないとという気合が入りました。

ファンデーションの色も客観的にチェックしてもらいました。私は講師の方から「目の下にくまが出ていますね。パソコンとかしているとなりやすいんですよ」と指摘を受け、個別指導で「目の下のくまの隠し方」を教わりました。鏡で見る自分の印象がガラッと変わり、気分が良くなっていきました。アイメイクは普段していない為、慣れないぎこちない作業でした。眉の描き方、リップ、チークは就活メイク本の復習でした。思い出

しながら、プリントを見ながらメイクしていきました。左右の眉山のチェックも講師の方にしてもらいました。周りを見渡すと皆さんキレイになり表情まで良くなっていたので、毎日のスキンケアをしっかりとしていきたいと思いました。

その日の夜、ドラッグストアでコンシーラーを買い、隠し技のくまの取り方を次の日から実行中です。(川村響子)

「おしゃれなスーツの着こなし講座」に参加して



就労者ミーティングには3回とも出席してきました。前々回、前回ととても面白く、興味深く、為になる事ばかりでした。今回はスーツの着こなしです。開始前は正直、ス

ーツについて2時間もそんなに話す事があるのかと懐疑的でした。配られたパンフレットを見てもどう考えても30分しか持たないのではないかと言う情報量です。しかし、これほどのうんちくの量があるのかと今回講義を聴いてびっくりしました。

まずはスーツの種類から。三つボタンか二つボタンか。シングルかダブルか。最近の傾向としては二つボタンが主流でしかも細身のスーツが流行っているのだと言う。シングルは仕事の時に着る事が多く、ダブルは冠婚葬祭の礼服で着られる事が多いと言っていた。その事なら私のデータにも入っている。

しかし、その後からは知らない事の連続だった。生地の話ではウールは伸縮性があり、夏は風通しが良く、冬は熱がこもる。しかし、欠点としてシワになりやすいと言うのがあった。生地には他に

もポリエステルがあるがそれはシワになりにくい、伸びない、夏は蒸し、冬は冷えると欠点も多い。シワの取り方も教えてもらった。ハンガーに吊るして霧吹きをかけるだけで直せるのだそう。うだ。「へー」と思った。びっくりである。クリーニングはあまり出さない方が生地の為とも言っていた。長持ちや汗対策には2~3着を着回すのが良いそうだ。ネクタイの色はそれぞれに印象があってシーンを使い分けるのが良いらしい。他にもワイシャツ、シューズ、カフス、タイバーのうんちくもあった。為になる話だった。

第2部：「クリスマス立食パーティー」

1時間30分、歓談タイムあり、景品付きゲームあり、音楽のライブありと盛り沢山で面白かった。世間は狭いようで誰かしらは知り合いがいた様である。ここでの世間話は仲間だと感じられる事が多々あり、励まされた。次回も開催される事を強く願っている。(根本俊史)



地域住民が主体的に人を支える コミュニティカフェさくら茶屋の取り組み

はじめに

コミュニティカフェさくら茶屋とは

横浜市金沢区の「西柴団地」の有志住民が、少子高齢化が進行する団地の中で、「いつでも誰でも気軽に集える場所」の必要性を感じ「西柴団地を愛する会」を立ち上げ、「空き店舗を利用した地域活性化プラン」として「ヨコハマまち普請事業」に応募。1次、2次審査を無事突破してコミュニティサロンカフェさくら茶屋(以下「さくら茶屋」と略す)をオープンした。

店では手作り定食(500円～800円)を味わえるほか、レンタルボックスを併設し、手作りの手芸品や工芸品、パンやクッキー等も販売している。金沢区内にある障害者の作業所(4カ所)の製品も並べられている。

この他、さくら茶屋では様々なサービスを提供している。子どもを対象にした朝塾、季節に応じた子供向けのイベント、買い物支援事業、健康増進のためのポールウォーキング、認知症予防のための様々な講座もある。

また、精神障がいのある方の受け入れもしていることを知り代表の岡本溢子さんにお話をうかがった。

「3年前からひきこもりがちの方や精神障がいのある方をボランティアとして受け入れている。はじめのきっかけは、レンタルボックスを借りられている精神の作業所の方から『ここでお手つだいをしたい』と通所者が言っているが、受け入れてもらえないか、という話があり受け入れを決定した。さくら茶屋は、全員がボランティアで活動しており、『手伝いたい』という人は大歓迎である」。また岡本さんは金沢区生活支援センター「愛&あい」に非常勤として勤務しており、精神障がい者



ぐるなび神奈川版より

に対して理解があったことも受け入れの大きな要因となった。

具体的な受け入れの様子は

【Aさんの場合】

Aさんは、11時から13時半まで洗い物を中心にお手伝いをしてもらっている。2時間30分ほどであるが、今ではなくてはならない戦力である。お店が混んでいる時などは、つい洗い物は後回しになりがちなので、とても助かっている。週に1回、2年続いている。周りのスタッフからも「明るくなってきたね」と言われている。自分から進んでの会話も増え、忙しい時はホールに出てお水を出したり、食事を運んだり、お盆を下げたりと自分から気遣いをみせるようになった。またさくら茶屋のスタッフのお花見会、納涼会、忘年会、研修旅行にも積極的に参加している。

【Bさんの場合】

Bさんは、岡本さんが職場で相談を受けたことをきっかけにボランティアをすすめ、受け入れた方である。週1回9時から13時半まで、4時間30分のお手伝いである。朝時間通りに来て、お惣菜を詰めたり、天ぷらセットの詰め合わせをしたりしている。お店が11時からオープンするとホールでお客様の注文を取ったり配膳をしたりして



いる。

Bさんは6カ月ほど働いた後、「働きづらさに悩むガールズのための仕事準備講座」に参加することになった。岡本さんは「本人が次のステップに進めるような自信がここでつけられたのはよかった」と喜んでいる。

【Cさん、Dさんの場合】

Cさんは、引きこもりがちなお嬢さんで、お父さんが心配され相談に見えられ、約1年間お手伝いをした後、専門学校に進学された。スタッフも皆大喜びをして送別会をした。

Dさんは、飛び込みでお手伝いをしたいと見えられ5カ月ほど手伝った後、転居のため残念ながらやめられた。

周りのスタッフの反応はというと

「最近は病気（精神）の人が多いから、いろいろな形で支えていかなければね」「病気なんて全然思わない。みんな同じよね」と公平な立場で接しているという。

岡本さんは「ボランティアだから良かった。自分のできることを無理なくやることがボランティアだから」。また「精神障がい者は、いきなり職場で働くというのはきついのではないか。中間地点としてさくら茶屋が役に立てばうれしい。ここで自信をつけて次へのステップにして欲しい」と語っている。

終わりに

ひきこもりや、精神障がい者、とにかく社会に上手く出られない方にとってはこのような形で受け入れてくれる場所は貴重である。仕事への意欲を引き出されるだけでなく人の温かさにも触れる機会となる。

受け入れることで周りの方が理解したり協力する姿勢も自然にできていくようである。もちろん、

代表の岡本さんが精神障がい者につきあうことや対応に慣れているからこそ可能になっていることではあるが。

高齢者への支援を中心とした地域住民によるサポート事業は最近良く耳にするようになったが、精神障がい者をも積極的に受け入れるところはまだまだ少ないのではないだろうか？

先ずは一緒に自然に付き合えるこのような場や機会がもっともっと地域に増えて欲しいと思う。

(YMSN 森川充子)

「めんちゃれ」を精リハ学会でPR ～ポスター発表の感想～

精リハ学会のポスター発表に「めんちゃれ」のメンバーがその設立経緯、活動について報告してきました。当日の発表内容と、参加した人たちの感想を掲載します。

はじめに

近年、精神障がい者の働く環境が成熟してきました。確かに私の周りでも職業に就く人が増えている気がします。なぜ、就職かはみなさんが知っている通りデイケア、作業所、仕事というステップが支援者側から提示されているからです。では仕事をしている人たちの次のステップは何なのか。そこで思い至ったのが婚活です。障がい者も健常者と同じように恋愛をしたいし、結婚もしたいと就業者は考えているようです。これは仕事を続けるためのモチベーションにもなります。しかし、障がい者の婚活の場は今のところかなり厳しい状況といえるでしょう。確かに婚活の場を提供している所はありますが、健常者に交じっての婚活は収入面だけを見てもかなりの不利を強いられることも間違いありません。障がいを理解してくれる人に巡り合うのもかなりの確率で難しいでしょう。しかし、婚活支援は公の機関がするには難しい案件です。支援機関に宛てた意見でも婚活の要望は多いようですが形になっていないのが現状でしょう。

『めんちゃれ』は横浜メンタルサービスネットワーク（以下、YMSN）の呼びかけで集まった、委託訓練（以下、トライ）の卒業生を中心とした有志が運営しています。本学会では活動の経過や内容などについてお伝えします。

活動の様子

最初の会議は2011年の8月でした。暑い夏でした。YMSNの事務所にメンバーが集まりました。トライのOB会で見覚えのある顔ぶれでした。みんな婚活に興味がある人たちです。しかし、残念なことは女性がYMSNのスタッフしかいなかった事では



- 色々な方々と出会いがあり、情報交換の場となった。
- 充実した一日だった。
- 同じ病気の人達と集まる機会はあまり無いので、楽しかった。
- 一緒に頑張る仲間がもっと増えるといい。
- 同じ支援機関や職場にかかわらず、さまざまな人が集まるイベントで面白かった。

う。だが、集まったメンバーの能力は高かったのです。インターネットのホームページを作れる人がいたり、チラシを作る人がいたり、積極的に意見を出す人、実際に結婚経験がある人、民間企業の婚活の現状を見てきた人、文章をまとめるのに長けた人など多彩な顔ぶれだったのです。2回目の会議からは当事者の女性も参加する事になりさらに充実した会議が行われるようになりました。まずはスケジュールを考え、それに沿って活動方針を決め、どのようなパーティーにするか、参加条件、会場、日時、参加費用、などを決めていきました。ホームページもチラシも順調に出来上がりました。関係機関にチラシを置かせてもらったり、トライOBに通知して

	男性	女性	成立カップル
第1回	17人	3人	0人
第2回	16人	4人	2人

もらったり、就労支援センター主催の就労者ミーティングで告知やチラシの配布を協力してもらったりなど周りの援助にも助かりました。

記念すべき第一回目のイベントでは12月にクリスマスパーティーを開催しました。男性の大半が婚

活を意識していたのに対し、婚活を意識して参加した女性は3人中1人とちょっと残念な結果でした。

第二回目のイベントは2012年4月でした。花見の開催です。今回の婚活を意識して参加した女性は4人中3人とこの数字は確実に増えました。全体では20人が参加しました。

今後について

会議では相談にのる事も始めました。仕事や恋愛など色々なものに対応しています。当事者に対し当事者が受け答えをするので精神的に楽なのではない

でしょうか。今後は結婚や子育てにも関心を広げたいところです。

イベント以降、複数のカップルが誕生しました。今後もこのようなカップルを巡り合わせるように活動をしていきたいです。

また、「同じ境遇の仲間が集う機会が定期的にあることが仕事や生活の励みになり、活力剤の役割になる」という参加者の声を大切にしていき、継続した活動をしていくつもりです。（執筆：根本俊史）

発表の感想は、以下のとおりです。

- ・ これからの生活にとっても役に立ちました。
- ・ 学会みたいな大きなところで、みんなに活動を見てもらったのは、とてもよかったです。
- ・ 学会用の資料を作る仕事をしていますが、もらう側になってみて、良い経験をしました。
- ・ 展示物は周りの団体のものと比べると、しろうつぽく、浮いていると感じはしたが、意外と足を止めて読んでたり、質問をしてくれる方が多くいて、嬉しかった。
- ・ 精神病の人々の色々な話、薬の話もためになりました。
- ・ 思っていたより、めんちゃれのポスター展示に興味を持った人がいて、びっくりでした。このような機会をありがとうございました。
- ・ 他の団体と交流を持てたのが、一番良かったと思います。つぎは、こちらからも配れるも



のを用意してのぞみたいと思います。もっとこういう機会があれば参加したいです。

- ・ 思ったよりも多くの方が話を聞いてくださり、嬉しかったです。個人的には、自分が書いた小説を、来てもらった人に読んでもらいたい。さらに励ましてもらいたい。モチベーション上がりました。当事者が頑張っているところを見てもらったのも、良かったと思います。

学会の研究発表を聞いて感じたことを寄せてくれました。

- ・ 大変勉強になりました。皆さん、メンタルネットのスタッフみたいな方々が、一生懸命、日頃頑張ってくださっていることが凄く伝わりました。そして、私達当事者がもっと世間に知られるよう、仕事を続けていくことの大切さがわかりました。皆さんのおかげでこうして仕事が続けられていることに、感謝しています。

研修会のお知らせ

<p>■精神保健福祉研修会 参加費 1回 500円 (年間4,000円)</p> <p>日 時 : 毎月第2金曜日(全12回) pm. 7:00~8:30</p> <p>場 所 : YMSN研修室 (上大岡駅 徒歩5分)</p> <p>内 容 : 「住まい」を考える ホームページをご覧ください http://forest-1.com/ymsn/</p>
<p>■SST(生活技能訓練)研修会 参加費 1回 1,000円 (年間 7,000円)</p> <p>日 時 : 毎月第3木曜日(8月・11月休会 全10回) pm. 7:00~9:00</p> <p>場 所 : 横浜市総合保健医療センター 講堂</p> <p>全体会 : 「精神障がいと回復」リバーマン著書輪読会</p> <p>分科会 : A. モジュールを学ぶコース B. リーダー体験コース C. ビギナーズコース</p>

当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3水曜日(原則) pm. 2:00~3:00
就労フォローアップミーティング	YMSN	OB会の開催(不定期)
SST	YMSN(就労者のSST)	毎月第1土曜日 pm. 1:00~2:30
当事者活動	めんちゃれ	就労している当事者活動(年4回)

会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間5,000円)
 会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。
 精神保健福祉研修会(1,000円) SST研修会(3,500円)
 会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円(個人) 賛助会員12,000円(団体)
 (正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先: 郵便振替口座 00250-6-71607
 横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 9 No. 3

めんたるねっと 第35号 2013年1月7日発行

間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行: NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク
 理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子
 〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-12-3-204
 TEL 045-841-2179
 FAX 045-841-2189
<http://forest-1.com/YMSN/>
 e-mail: YMSN@forest-1.com

印刷: 横浜市総合保健医療財団
 就労移行支援事業所 港風舎